

(様式第4号)

第2回上田市男女共同参画推進委員会 会議概要

1 審議会名	第2回上田市男女共同参画推進委員会
2 日時	令和3年7月15日 午後1時30分から午後3時00分まで
3 会場	市民プラザ・ゆう 2階大会議室
4 出席者	丸山理英子会長、柿寫宣江委員、笠原邦正委員、柴田隆一委員、綿内美鈴委員、竹内梨恵委員、山浦和江委員、下倉亮一副会長、金子幸江委員、宮島範雄委員
5 市側出席者	佐藤人権男女共生課長、石田係長、松澤主査、丸子市民サービス課小林補佐、真田市民サービス課若林係長、特定非営利活動法人 SCOP (委託事業者)
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和3年7月30日

協 議 事 項 等

●推進委員会

1 開 会 (佐藤課長)

2 あいさつ (丸山会長)

3 協議事項

(1) スケジュールについて

- ・事務局からスケジュールを説明
- ・質問・意見なし

(2) 大学生アンケート・子ども(中学生)アンケートの報告

- ・事務局から大学生アンケート結果概要(資料1 P13)について説明
- ・事務局より子どもアンケート結果概要(資料1 P14~15)について説明
- ・質問・意見なし

(3) 計画策定の目的と背景

- ・事務局から資料1 P2について説明
- ・質問・意見なし

(4) 上田市の現状と課題～現行計画の振り返り～(グループワーク)

- ・グループワーク前に、事務局から資料1 P3について説明
- ・基本目標別の3グループで基本目標の現状に対して課題の意見出し(付箋で意見を収集)
- ・各グループのまとめと総括

■基本目標1【女性活躍の推進】(事務局)

- 市の審議会等に占める女性の登用率は、国や県より高くなっており目標達成といえる一方で、他の委員等における女性の登用率は低い状況である。しかし、市の審議会等に占める女性の登用率が国や県より高いからよいというのではなく、実質的に、意欲のある女性が登用されているのかどうかという、数字では見えない部分が課題としてあげられた。
- 働きやすい環境整備という点で、一時預かり保育の実施園が拡充していることは数値で見えるが、子どもを預けたい希望者全員が利用できているかがより重要なのではないかと考える。また、仕事をもち続けたいという女性が多いことから、より育児や介護の休暇制度の推進が必要であると考える。家庭と仕事の両立は家庭内の理解も必要となるため、さらなる家庭内の固定的役割分担をなくす意識啓発が重要となる。
- 具体的目標の4・5に関しては、指標として適切ではないため、見直していく必要がある。

- 基本目標 1 の総括としては、指標を見直し適切な指標を定める必要があること、また、ワーク・ライフ・バランス実現のための環境整備の強化が重要であると考えられる。

■基本目標 2 【男女共同参画の意識づくり】（事務局）

- 男女共同参画社会づくりに関する意識啓発は年代によってアプローチの仕方は異なるので、年代にあった意識啓発の仕方の検討が必要と考えられる。また、長年の慣習がしみついている高齢者の意識を変えることは容易ではないと思われるが、地域や自治体などが積極的に意識啓発を行うことで、高齢者の意識を変えていくことが可能なのではないか。
- 教育現場に関しては、男女平等であるとの回答割合が高くなっているが、幼少期から意識させることが今後重要になると考えられる。教育は小・中学校から、と考えられているが、幼少期の経験がまずは重要になってくるのではないか。また、小・中学校での教育は目に見えますが、高校や家庭での教育はわかりにくいため、目に見える取組が重要と考える。
- 学習環境の整備として、人権男女共生課の事業として市民フェスティバルを行っているが、内容を検討し、年代問わず参加しやすくすべきなのではないか。また、内容を考える際に、意識が進んでいる若者が主体となった企画も今後は大事にするべきと考えられる。行政計画をはじめとし、内容が難しくなってしまう部分があるので、「難しいことをわかりやすく、わかりやすいことを深く、深いことをゆかいに」学べる工夫が今後は必要になるとと思われる。
- 国際的協調としては、国際女性デーに合わせてイベントを行っているが、若者の参加が少ないことが課題としてあげられていた。しかし、若い世代のほうが理解が進んでいるのではないかと、との意見を踏まえ、若者主体で開催するイベントを別途検討していきたい。
- 男性にとっての男女共同参画の推進には、周りの理解が大切なのではないかと、との意見があげられたことから、上司の理解促進や意識変化は重要であると考えられる。
- 基本目標 2 の総括として、年代によって考え方が異なるため、年代別にアプローチの仕方を考えることが重要と考える。また、幼少期からの意識啓発を行うと同時に、教える側の保育士等への学習・研修の機会を設けることも必要である。

■基本目標 3 【生涯を通じて安心して暮らせる地域づくり】（事務局）

- 具体的目標 11、12、14 に関して、「高齢者になるほど社会とつながれない男性が多いのではないかと」、「男性ばかりの自治会の集まりには女性はなかなか入りにくい」、「仕事があるため、自治会のなり手になれる人が少ない」、「仕事があるため、自治会に関わりたくても関われない」、「昔ながらのしきたりによって、自治会長になりたい女性がいてもなれなかった」などの課題が多くあげられた。
- 防災の分野に関する男女共同参画の推進に関しては、防災会議に占める女性の割合は国や県の割合より高いものの、防災会議は各事業所、団体の長が委員となっているため、女性が委員となるのは、組織の構成的に厳しいのが現状である。しかし、会議の委員はそれぞれの事業所、団体等の長として、その組織の意見をまとめ、代表として出席しているのだから、委員の性別に関係なく、多様な意見を吸い上げられる会議の場や体制づくりが重要なのではないかとという意見があげられた。
- 基本目標 1 と同じく、基本目標 3 の指標である防災会議や自治会に占める女性の登用率は、指標が実態を表していないと考える。例えば、自治会では、自治会長にはなっていないが、実際

に地域活動を下支えしているのは女性であるといった現状から、指標については見直す必要がある。また、DV相談件数は件数ではなく相談しやすさなどを測るべきとの意見もあげられた。

- 女性に対するあらゆる暴力の根絶に関しては、女性への暴力と記載があるが、暴力の被害者には女性だけでなく男性もなっていることから、表現を変えるべきなのではないか、と意見を頂戴したので、次期計画では見直していきたい。
- 基本目標3の総括として、地域とのつながりが薄くなってしまっている高齢や独居の男性を、どのように地域活動に参加してもらうかが、今後の課題といえる。

・質問・意見など

(副会長) 学校現場で働かれている委員さんに質問で、男女共同参画を進めるにあたって、困ったことなどあれば教えていただきたい。

(委員) 先生が妊娠されたときに、人員を補う方法が校長任せになってしまっていることは、どこか残念な気持ちになった。また、PTAの会長が男性という習慣があり、なかなか今までの流れや意識を変えられないことは困っている。最後に、個人的な話ではあるが、自身の妻から、「管理職には働く人の時間を考える役割があるけれど、教員の管理職に女性が少ないのはそもそも労務管理ができていないからなのではないか」と言われたことがあり、その点に関しては、私自身反省した経験がある。

(会長) 自分が子育てをしていた際の経験で、東京ではPTA役員は選挙で決め、大半は女性が担っている状況であった。私も、2年ほど自治会長をやったが、高齢の女性から「そんなことは男性に任せておけばいいのよ」とか、高齢男性から女性蔑視的な発言を受けるといった経験があった。しかし、ある人から自分らしくやればいいというアドバイスを受けて、それが転機になり、その後も自治会長を続けることができたので、地域活動も等身大の自分でやるのが大切であると感じている。

(5) 第4次上田市男女共同参画計画の名称について

- ・事務局より愛称検討についてのご希望の主旨を説明
- ・質問・意見など

(委員) 男女共同参画という言葉に違和感がある。ダイバーシティの中に男女があると思っている。教育現場においては、男女もなく、平等の機会が与えられているため、子どもたちの感覚からすると「男女共同参画」という言葉自体違和感や、ギャップがあると思う。

(委員) 愛称をつけることに賛成である。まさに先ほどの「難しいことをわかりやすく」することだと考える。第3次計画概要版の色味などはすごくいいが、計画名がやはり堅苦しいので、愛称をつけて、愛着につなげていけたらと思う。

(6) その他

- ・次回委員会は、8月11日(水)14時～開催

4 閉 会 (佐藤課長)